

遺族怒り 時効撤廃の原動力

再考 犯罪被害者



小林順子さん

東京・上智大生殺人放火事件

「犯人を追い詰める」。小林賢二さん(76)は、26年の歳月、その思いを抱いて生きてきた。平成8年9月、次女の小林順子さん(当時21)を殺害され、大切な自宅を全焼させた犯人は今も闇に消えたまま。怒りをぶつける相手さえいない苦しみにもがき続けている。

「あいつごい間」

「解決を心待ちにしながら毎日過ぎてきた。順子が生きてきた21年間も超え、あつという間だった」。小林さんは平成21年に殺人事件被害者遺族でつくる「宙の会」を発足し、会長を務める。会の当初の目標は凶悪事件の公訴時効撤廃。「このままでは申し訳が立たない」。胸中には順子さんの命を奪った犯人の時効が近づくと、こうし

「悲しみより順子の思いを考えると悔しかった。順子も悔しかったし、自分も悔しい」。犯人への怒りは活動の原動力になった。小林さんらの訴えは世論に広がり、1カ月で時効撤廃を求める約4万5千人分の署名が集まった。22年4月に刑事訴訟法が改正され、刑事司法における凶悪事件の時効はなくなった。

刑事司法での時効がなくならない一方、民事では20年と定める時効制度が今も残る。小林さんの事件は平成28年、民事での時効が成立した。

事件後、小林さん夫妻には重い経済的負担がのしかかった。「事件の起きた場

26年間 犯人追い続け



上智大生殺人放火事件
平成8年9月9日午後4時ごろ、東京都葛飾区柴又の住宅で上智大4年、小林順子さん(当時21)が首を刺され殺害された。現場は放火され全焼。事件直前には立ち止まって小林さん宅を見ていた黄土色のコートを着た不審な男の姿が目撃されている。現在も犯人像は絞り込めていない。情報提供は警視庁亀有署捜査本部(03・3607・0110)。

「どんな人でも、自分が犯罪被害者の一人になる可能性はゼロではない」と語る小林賢二さん

東京都港区

五輪汚職でKADOKAWA会長

元理事に資金「認識なし」

東京五輪・パラリンピックを巡る汚職事件で、出版大手「KADOKAWA」の角川歴彦会長(79)が5日、取材に応じ、組織委員会理事の高橋治之容疑者(78)「なかつた」と話した。

受託取崩容疑で逮捕の角川会長によると、KADOKAWAが大会スポンサーの契約を結ぶ前、この



記者団の質問に応じるKADOKAWAの角川歴彦会長(5日午後2時35分、東京都千代田区) (代表撮影)

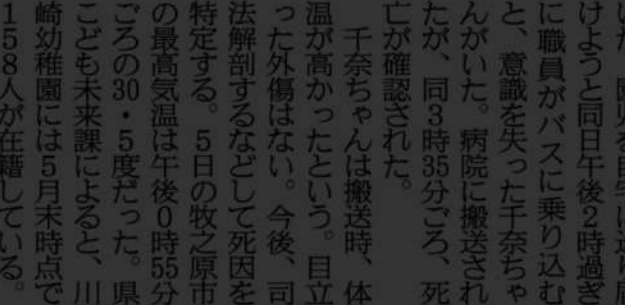
知人の会社とコンサルティング契約を結び、コンサル料を支払ったことは認められた上で、支払った資金の一部が高橋容疑者に渡る認識は「なかつた」と話した。

5日午後2時10分ごろ、静岡県牧之原市静波の「川崎幼稚園」で、園児の河本千奈ちゃん(3)と同日午前8時50分ごろ、園児の河本千奈ちゃん(3)が通園バスの中で意識を失っているのを職員が見つけた。千奈ちゃんは搬送先

バス置き去り 3歳死亡

致死容疑を視野に詳しい経緯を調べる。

令和3年7月にも福岡県中間市の保育園で送迎バスに取り残された男児が死亡する事件が発生。厚生労働省は安全対策の見直しを徹底



現場 牧之原市

静岡県警によると、千奈ちゃん(3)は5日午前8時半ごろ、自宅付近からバスに乗り、約20分後に園に到着した。バスは園長の70代男性が運転し、派遣職員の70代女性も同乗。園児は千奈ちゃんを含め計6人が乗っていた。園児を自宅に送り届けようとして午後2時過ぎに職員がバスに乗り込むと、意識を失った千奈ちゃん(3)がいた。病院に搬送されたが、同日午後3時35分ごろ、死亡が確認された。

千奈ちゃんは搬送時、体温が高かったという。目立った外傷はない。今後、司法解剖するなどして死因を特定する。5日の牧之原市の最高気温は午後0時55分ごろの30.5度だった。県庁も未来課によると、川崎幼稚園には5月末時点で158人が在籍している。

DNA捜査 残る壁

容姿分析 法律なく

犯罪被害者や遺族への支援制度の整備は着実に進む一方で未解決事件特有の課題も残る。被害者遺族にとっての最大の壁は犯人の逮捕だが、捜査をばらばらにしながらDNA捜査の不自由さが指摘されている。

捜査機関は採取したDNAを国家公安委員会が定める「DNA型記録取扱規則」などに基いて保管、活用している。米国などではDNA情報をもとに犯人の容姿を分析するなどの手法があるが、日本は明文化した法律がない。分析をしたとしても、結果を公開して捜査することは難しい。小林さんら「宙の会」は

宙の会は民事での賠償請求が認められれば、被害者の負担を軽減する。被害者の負担を軽減する。被害者の負担を軽減する。被害者の負担を軽減する。

森川時久氏(もりかわときひさ)「映画監督」8月28日、消化管出血のため死去、93歳。葬儀・告別式は近親者で行った。喪主は妻 方子(まさこ)さん。文化放送を経て昭和34年、フジテレビに入社。田中邦衛さんら出演のドラマ「若者たち」(41年)のディレクターを務め、同作の劇場版で翌42年に映画監督デビュー。その後フリーとなり、「次郎物語」(62年)などの映画作品を手がけた。

「再考」犯罪被害者に関する読者のみなさんの声をメール(saikou@sankei.co.jp)にお寄せください。

「犯人が捕まったら連れて行く」。焼け跡となった自宅も残っていた。だが、崩落の危険性もあって事件の約1年半後に解体。約100万円の解体費は全て自費だった。

今後、犯人が捕まったらとしても損害賠償を請求することはできない。刑事とのばらつきがある民事の時効への違和感は消えない。

技術進化に望み

過ぎ行く時間の中で、一縷の望みは捜査技術の進化だ。順子さんの体にかけるれていた布団の血痕は犯人のものともみられるDNA型が検出されている。1階部分に残されたマッチ箱にも同型のDNAがあった。小林さんはこのDNA型が難航する捜査の最後の希望だ。

「長く苦しんだ」母の元夫証言

富山県高岡市は5日、水見市の沖合で4日に見つかった遺体の身元を、8月20日から行方が分からなくなっている同県高岡市立野の保育園児、高嶋怜音ちゃん(2)と確認したと発表した。司法解剖の結果、死後1カ月以内とみられ、死因は不明。署は、自宅周辺で水路や川に転落し、海へ流された可能性があるとして調べている。

怜音ちゃん(2)の家族は5日、「とても残念な結果で心の整理がつかない」とのコメントを出した。

怜音ちゃん(2)は8月20日午後6時40分ごろ、自宅で姿が見えなくなった。母親が捜索したが見つからなかった。母親が捜索したが見つからなかった。

富山県高岡市は5日、水見市の沖合で4日に見つかった遺体の身元を、8月20日から行方が分からなくなっている同県高岡市立野の保育園児、高嶋怜音ちゃん(2)と確認したと発表した。司法解剖の結果、死後1カ月以内とみられ、死因は不明。署は、自宅周辺で水路や川に転落し、海へ流された可能性があるとして調べている。

富山県高岡市は5日、水見市の沖合で4日に見つかった遺体の身元を、8月20日から行方が分からなくなっている同県高岡市立野の保育園児、高嶋怜音ちゃん(2)と確認したと発表した。司法解剖の結果、死後1カ月以内とみられ、死因は不明。署は、自宅周辺で水路や川に転落し、海へ流された可能性があるとして調べている。

県市に64億円損害提訴 熱海土石流の犠牲者遺族ら

静岡県熱海市で昨年7月に発生した大規模土石流を巡り、土砂崩落の起点となった土地での違法な盛り土造成を黙認したとして、犠牲者遺族ら110人と被災した3法人は5日、県と市に計約64億円の損害賠償を求め静岡地裁沼津支部に提訴した。被害者の会会長の瀬下雄史さん(54)は

記者会見で「真相究明をしっかりとっていくことが同じような被害の抑止につながる」と強調した。災害関連死を含む27人が命を落とし、1人が行方不明となった「人災」の原因究明に向けた動きは新たな局面に入る。原告代理人の加藤博太郎弁護士は会見で「(県・市は)悪質な行為を放置してきた。行政の不作為を問う訴訟の試金石にもなる。厳しく責任を追及しなければならぬ」と提訴の意義を説明した。

川勝平太知事は「遺族の気持ちを真摯に受け止め、誠実かつ適切に対応する」、斎藤栄市長は「対応は検討するが、引き続き復旧復興に全力を尽くす」とそれぞれコメントした。

ニュースの窓口
社会部 Eメール news@sankei.co.jp
社会部 FAX 03・3275・8750